

### 18-3 貿易の拡大は資本主義的生産様式の内的必然性の産物である

「貿易によって一方では不変資本の諸要素が安くなり、他方では可変資本が転換される必要生活手段が安くなるかぎりでは、貿易は利潤率を高くする作用をする。……貿易の拡大も、資本主義的生産様式の幼年期にはその基礎だったとはいえ、それが進むにつれて、この生産様式の内的必然性によって、すなわち不断に拡大される市場へのこの生産様式の欲求によって、この生産様式自身の産物になったのである。」（大月版『資本論』④ P297B4-298F3）

そして、資本主義的生産様式の晩年期には資本の海外移転によって自国の資本主義的生産様式の基礎を掘り崩すのである。外国では「資本主義的生産様式を発達させ、」国内では「過剰生産を生みだし、」過剰な労働力を生みだす。——青山